

## 臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報は厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

### **【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】**

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1  
電話：03-3541-5151（代表）  
担当者の所属・氏名 消化器内科 中村 健二

### **【研究責任者】**

聖路加国際病院 消化器内科 中村 健二

# 高齢者大腸憩室出血における内視鏡的止血術の有用性と安全性の検討に関する研究

## 1. 研究の対象

- ・当施設において、2009年6月から2017年11月までに大腸憩室出血と診断され、当院で治療をお受けになられた患者さん。

## 2. 研究の目的・方法

- ・本邦においても、大腸憩室保有者および大腸憩室出血の増加が報告され、ガイドライン作成に向け取り組まれています。

大腸憩室出血の治療は、腸管安静や輸血などの保存的治療、内視鏡的止血術、動脈塞栓術や大腸切除術がありますが、現状では、これらの治療を各施設が患者毎に判断しています。

一般的には低侵襲である内視鏡的止血術が選択されることが多いですが、内視鏡的止血術にはband ligation (医療用の輪ゴムで結紮する方法)、clip法 (医療用の金属クリップで縫縮する方法)、局注法 (血管を収縮させ止血する方法)、凝固法 (熱で血管を変性させる方法) など複数の方法が報告されています。これらの内視鏡的止血法に初回治療や再出血に差はありませんが、band ligation で動脈塞栓や手術が少ないことが示されています。

本邦ではかつてない超高齢化社会を迎え、大腸憩室出血は高齢者に多いことが報告されておりますが、内視鏡的止血術の高齢者における有用性を示した検討はありません。今回、当施設での75歳以上の後期高齢者と非高齢者における大腸憩室出血において内視鏡的止血術の治療成績につき検討する研究を立案しております。

- ・なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録(カルテ)に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2022年12月31日までの予定です。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・カルテ番号、年齢、バイタルサイン、併存疾患、既往歴、薬剤服用歴、内視鏡所見、血液検査所見などを収集・評価させていただきます。